



2025年12月15日発行(季刊)

認定NPO法人 市民シンクタンクひと・まち社
〒160-0021 新宿区歌舞伎町2-19-13 ASKビル501
TEL 03-3204-4342 FAX 03-6457-6202
E-mail npo@hitomachi.org
URL : http://www.hitomachi.org
郵便振替口座 00170-6-410791 NPO法人市民シンクタンクひと・まち社

垣間見た中国(北京)の高齢福祉

認定NPO法人市民シンクタンクひと・まち社 理事 木下伸子

◆東京都日中友好協会(都日中)主催の北京市との市民交流事業に参加

参加者は、協会役員の団長、職員の秘書長のほか、高齢施設経営の社長、大学教授、日中関係会社役員、ケアマネジャー、看護師、大学生、それに私と友人の総勢10人。

到着1日目は、次年度の「両国の友好交流活動に関する覚書調印式」に合わせた北京市人民対外友好協会主催の晩さん会に始まり、2日目は、北京市大興区で、北京日中イノベーション協力モデル区の展示ホールや企業、中国建築設計院を訪問し、健康・介護産業を見学・意見交換。3日目は石景山区の日本の明治時代からあった膨大な鍊鉄所移転後の公園を見学し、午後は高齢者福祉施設を見学・懇談した。

◆北京市石景山区の高齢福祉

石景山区は北京中心6区の中で3番目の面積約86km²の中に9つの街道(エリア)を持つ、人口56万1千人の都市である。高齢化率は市内トップ3に位置しており、区は養老介護(高齢者福祉―筆者解釈)計画で、医療サービスと医療介護の結合等を定めている。養老サービスは、区の養老サービスセンターの下、ハブサービスセンターが9街道中7か所に設置され、それぞれ、所管エリア内の認知症などの特別対象者(要介護者)に対し、施設サービスや在宅サービスとして、経済的・生活的自立支援、食事支援、緊急体策設備、介護ベッド、病院との連携等を行っている。

◆孝和居養老サービスセンター(高齢者サービスセンター)

ハブセンターの一つ、八角街道孝和居養老サービスセンター(在宅高齢者サービスセンター)では、建物の1階がデイサービスで、日本と同じように様々な活動をしており、地域の高齢者が通ってくる。

病気になった場合は、治るまで、2階のベッドルームで治療と、介護サービスを受けることができるという。期間はかなり長くもいられるそうで、日本の小規模多機能サービス+老健的な機能があるように思った。利用者の何人かが、興味ありげに近寄ってきて筆者に「70(歳)?」と聞いてきた。「80歳」と答えると、にこにこしていたが、交流、とまではいかず残念だった。

◆五星級(五つ星)高齢者施設「寿山福海養老サービスセンター 石景山院」

寿山福海養老サービスセンター-石景山院はいわゆる老人ホームだが、五星級というだけあり2万m²の敷地に病院部分だけで3千m²、居室部分は一直線の廊下に面して100mにわたり設置されている。池あり林ありという中国庭園式の庭がある施設内に、100人以上の入所者がいるようだ。居室も広くホテルのような設えで、ハイテクの介護設備が整っており、ゆったりと過ごせそう。「高級有料老人ホーム並みですよ」と思わず口走り、いや中国ではそういう区別はないのだと焦る。が、どのような人が入りどのくらいの経費が掛かるのかは、気になる。ここは、寿山福海養老というグループ会社が北京市から受託しており、1:1または1:2で介護し、ベッド代、介護サービス、食事代(食事がカスタマイズできる)で月1~1.2万元とのこと(医療料金は別会計)。公営の7千元に対しかなり高額だ。五星級ということでこれからは、認知症や看取り対応も課題としているとのこと。それにより日本円にして、月額40万にはなるだろう、と。日本の介護保険のような制度はまだ限られた一部の地域のようなだし、経済的支援制度はあるらしいがやはり格差が生じるのは否めないのではないだろうか。

■日中共通の課題は?

急速に進行している中国の高齢化、それに応じて高齢福祉サービスの需要が高まっている、それに対応する課題の大きな一つは、なんと「人材不足」だという。えっ!?こんなに人口が多くて、若者の就職難なんて、時折ニュースで見た気がするけど・・・「若者はこういう仕事を好まない。人材育成機関も必要で」と、そのあたりのノウハウを日本に期待されているようだが、こちらも同じ悩み。介護用機器開発に、力が入るのも必然の成り行きだし、互いに知恵を出し合って、良いサービスが提供される社会づくりができればいいな、と思いつつ、帰国したが、あれっ、逆にまた国家間のこの状況、ため息つきつつ、雑駁な報告を閉じます。

子どもは遊びながら自然を体験し人間を知っていく

練馬区立田柄第二保育園園長 稲葉 穂

スマホやタブレットが子どもの生活の中に身近な存在となっている。子どもの育つ環境が急速に変化している中で、何を大切に子どもと向き合うのか、元園児をなくした悲しい経験とともに保育園の現場で見える「子どもの育ち」と保育への思いについて、ひと・まち社の評価者でもある保育園園長の稲葉穂さんに執筆をお願いした。

子どもは、園庭を駆け回り、木に登ったり、ダンゴムシを探したり、どろんこ遊びをしたり、全身で自然を体験しながら遊んで、遊んで、遊び込みながら仲間を作り、人を知り、確実に美しく生き生きと成長している。そんな子ども達を日々見せられ心底感動している。

K君の死と藍染Tシャツ

今年の夏も暑かった。

酷暑の日の午後、K君（小学2年生）のお母様より電話がかかってきた。

涙声で「Kが昨日亡くなりました！お別れの会をしたいと思しますので参加していただけますか？」と。事故死かと思って尋ねると、1年生の夏休みが終わる頃から吐き気がし、頭が痛いと言うので、熱中症かと思い病院で治療を受けたが、脳腫瘍であった。1年間入退院を繰り返し数回手術をしたが、帰らぬ人になったということであった。1年生の1学期しか小学校に行っていないので、0歳児から保育園に入園したK君は保育園の思い出がほとんどのようで、電話がかかってきたのだと思った。

K君は、本園の子どもが入学する近くの小学校ではなく、ちょっと離れた区域から登園していたので、小学校も遠くK君の病気のことは全く知らなかった。

お別れの会には、2年前の卒園児が家族と共に大勢参列していた

棺のK君は、小さい顔になっていたが穏やかに微笑んでいるようであった

子育ては、良いことも厳しいこともあるが、8歳の子どもの死は辛すぎた

両親の悲しみは計り知れなく、顔を見ることができない程であった

卒園児とその両親、その他の弔問者、全員の参列者が泣いていた

保育園時代のK君のクラスメイトの親同士、子ども同士は抱き合って泣いていた

6年間に培われたK君を巡る子ども・保護者の絆の深さを感じた

K君の顔をじっと見る子どもたちの顔は高潔で崇高であった

友だちの死を悼む心が育っていて嬉しかった
思い出の映像には、保育園での様子と家族旅行の様子が流されていた

最後の写真は、両親と共にこやかな笑顔の喜び溢れる卒園式の写真であった

旅行の写真では保育園で作った藍染のTシャツを着たK君が笑っていた

藍染めのTシャツはK君によく似合い、誇らしげに着ている感じだった

藍の葉っぱをミキサーにかけて、懸命にTシャツに染めていたK君の姿が思い出された

お別れの会の参列者の卒園児が数名、保育園で作った藍染のTシャツを着ていたのでびっくりした。体が大きくなったので、パツパツであった。種から蒔いて育てた藍で染めたTシャツ、自然のものは色落ちもしないと聞いたが、その通りであった。

「K君に愛された藍染Tシャツ」と共に保育園の思い出に、5歳児クラスで作った藍染Tシャツの存在があることに喜びを感じた。世界に一つだけ、自分だけの藍染Tシャ





藍の葉

ツは子ども達の宝物になっていた。キャラクターのシャツの方が人気があるかと思ったが、自分達で作った藍染の手作りのTシャツに、思っていたより子ども達は愛着を持ち、着れなくなっても大切にとってあるとのことであった。

今年も5歳児クラスは恒例の藍染Tシャツを作った。運動会と卒園遠足に着用する。藍を育てる行程は長く、花が咲く前の新緑の葉で染めなければならない。作業は大変で市販の染粉を使いたくなかった時もあったが、K君の死は手作りのすばらしさを改めて教えてくれた。来年度も引き続き藍染めは続けることを職員と確認した。藍は草なので染めた時は緑色をしているが、空気に触れた部分から青色に変化し、唯一無二の美しさになる。青色に変わっていく様子は不思議と言うか神秘的である。



藍染め

スマホ社会から子どもを守る

AI時代が到来しても人を育てるには、「自然」と「人」は不可欠である。

今、乳幼児から小中学生、大人に至るまで、取り付かれたかのようにハマっているスマホやタブレット。平面画面の文字と記号、映像のコミュニケーションは、人類が何十万年もかけて築き上げてきた温もりと思いやりのある社会システムを土台から崩し始めている。

いつでもどこでも多機能で簡単に操作できるスマホやタ

ブレットの乳幼児期の使用は、子どもの人間らしい心を育む前頭葉の発達を阻み、発達への多面的な悪影響が出ている。スマホやゲーム機と向き合う時間が増えると、人間との関わりが減り、ネット依存になり健全な発達が蝕まれ悲惨な結果になる場合も少なくない。

乳幼児期からスマホ・タブレットを与えられた子どもたちの運動機能、目の発達を阻害し、親もスマホ片手の子育てを行い愛着形成に悪影響を与えている。

子どもは様々な生き物に出会いながら、生命の神秘やはかなさを感じたり、季節の移ろいの中で自然と触れ合い、感性を豊かにしていく。自然と出会い、感動する体験は、自然に対する畏敬の念、豊かな感性を育てるばかりでなく、科学的な見方や考え方の芽生えを培う基盤となる。自然の環境の中で、子どもたちは、草の芽や小さな虫を見つけるとは、発見の喜びに感嘆の声をあげる。視覚、聴覚、味覚、触覚、臭覚の五感はこのようなりわけ外遊びの世界で育っていく。発見は、感動に支えられた学習となり、子ども時代の原体験として、その後の人生に大きく影響する。

スマホ社会から子どもを守るには、自然の中での遊びの復活しかないように思える。

未来をつくり出す力を養う

『保育所保育指針』の保育の目標に「保育所の保育は、子どもが現在を最もよく生き、望ましい未来をつくり出す力を培うために行う」と謳っている。未来をつくり出す力、つまり「生きる力」を培うには、自然の大きさ、美しさ、不思議等を直接体験することが大事である。その自然と触れ合う経験を通して、優しさ、好奇心、思考力、表現力等を培っている。

K君の死はとても悲しいことであったが、家族旅行で藍染めのTシャツを着て最高の笑顔を見せてくれていたK君や、保育園で作った藍染Tシャツを何時までも大事に着ている卒園児を見て、「手作り」「自然」「友だちとの関わり」「手ごたえのある学習」「自由な環境」等は、保育のポイントであることを再確認した。

藍染めの他にも、米作り、野菜作り、小動物の世話等を保育に取り入れている。米作りでは、田植え、稲刈り、脱穀までを経験している。食育に力を入れ、5歳児クラスは炊飯をして、毎日、自分でご飯をよそって食べている。

園庭の花壇や畑では、四季折々の花や野菜を育てている。収穫をして食育で具材を料理する経験は最高の喜びとなっているが、4歳児が育てていたトマトのまだ青く小さい実を2歳児が全部摘み取ってしまったり、練馬大根の葉ばかりが大きく茂り人参のような大根を収穫してがっかりしたことなども経験し、自然と交わる喜び、好奇心、厳しさなどを味わっている。

これらを伝えられる保育者になるための研鑽を怠らないようにしたいと思っている。

介護保険・介護予防に関する調査報告会 報告

昨年度、運動グループの協力で実施した「介護保険・介護予防に関する調査」の報告会を10月10日(金)に都議会第2会議室で実施し、関係団体や都議など51名の参加がありました。

報告会は、鏡諭さん(元淑徳大学コミュニティ政策学部教授)をお迎えし、「介護保険制度の現状と嫌われた負担増」と題した講演と4つの調査報告(I.訪問介護事業所の運営に関する実態調査、II.介護サービスに関する利用者調査、III.地域包括支援センターに関する調査、IV.介護予防に関する自治体調査)を行いました。



講演では介護保険制度の解説と現状をデータに基づき、今後の方向性や課題についてお話いただきました。調査報告では、調査報告書を使いながらI.訪問介護事業所の運営に関する調査報告を奥村さち子さん(東京ネット福祉部会)が行い、他の利用者調査、地域包括支援センター、自治体調査を工藤春代が報告しました。

会場の参加者の質問に答える形で鏡さんからは、介護保険制度は税金に頼るのではなく保険料で賄える制度にすることや事業所の大規模化の流れから、訪問介護事業

所などはNPOなどが事業化することで人間として生きていくことが感じられる介護ができることなど、小規模事業所のメリットなどのお話がありました。

コーディネーターの坪郷實さんからは全体のまとめとして、介護人材の確保のためにも基本報酬の引き上げが必要なこと、認知症高齢者を支える制度が必要なこと、使いたい人が使える介護保険にするためにも介護予防は一般財源がふさわしいことなどとまとめていただきました。最後にひと・まち社が蓄積した調査活動や東京・生活者ネットワークとの連携でできた調査なので、報告書を地域活動に生かしてほしいとの提案がありました。

介護保険・介護予防に関する調査報告書をご希望の方は、ひとまち社までご連絡ください。

認定NPO法人 市民シンクタンクひと・まち社
〒160-0021 新宿区歌舞伎町2-19-13 ASKビル501
TEL 03-3204-4342 FAX 03-6457-6202
E-mail npo@hitomachi.org

「評価者養成講習」受講者を募集しています

第三者評価は、東京都福祉サービス評価推進機構が策定する評価項目について、福祉サービス事業所の取り組みを調査し、その特徴を講評します。現在ひと・まち社は31名の評価者が登録しており、令和7年度は43事業所(高齢分24件、障害分野13件、児童分野6件)を受託しました。

■受講資格要件

要件1	福祉・医療・保健業務を3年以上経験している
要件2	組織運営管理等業務を3年以上経験している
要件3	調査関係機関等で調査業務や経営相談を3年以上経験している
要件4	福祉・医療・保健・経営分野の学識経験者で当該業務を3年以上経験している

* 受講内容はeラーニングと集合講習、実習があります。

■評価者

評価者は、毎年eラーニングによる悉皆研修を修了すること、年間1件以上の実践が求められます。ひと・まち社の評価委託費は、事業種および評価手法により設定しています。評価結果報告書はExcelで作成するので、パソコン・プリンターが必要です。

* 対象事業種：63(高齢21・障害27・子ども家庭10・女性支援保護5)

* 評価手法：標準方式・利用者調査とサービス項目を中心とした方式

※評価者養成講習についての詳細はひと・まち社ホームページをご参照ください

URL:<https://www.hitomachi.org>

お問合せ 市民シンクタンクひと・まち社(評価室)

Tel:03-3204-4342

e-mail:hyouka@hitomachi.org

編集後記：初の女性総理大臣が誕生した。メリハリのあるわかりやすい言葉ときちんとした服装に好感を持つ人がいるようだ。でも、選択的夫婦別姓の議論を避け、排外主義を感じさせるような発言がある。女性だからと言って女性の味方とは限らず、公共放送から流れる情報も正しいとは限らない。ほんとうか?と一度立ち止まり、自分で考える習慣が必要だと思った。(K)